

古典世界に誘うための「フック」と「問い」

 有田祐輔（大阪府立茨木高等学校）

1 好きなもの好きになってもらう

「古典好き」を増やすために、古典の文学的な面白さや奥深さについて正面突破で大熱弁しても、もともと古典に好意を持っていない生徒には響かないでしょう。例えば、プロ野球好きの私が、野球に関心のない友人の興味関心を喚起したいのならば、まずは友人が今持っている興味関心に寄り添うところから始めます。ファッションが好きの人にはおしゃれなデザインのユニフォームをリストアップして紹介したり、音楽ライブで盛り上がるのが好きな人を思い切ってスタジアムに連れて行ってみたい

り、相手の「今の興味関心」に引っ掛かる「フック」を仕掛けます。そして、そこから少しずつ、段階的に、野球競技の世界に引っ張っていきます。もちろん、最終的に目指すのは、その友人が野球という競技「そのもの」の魅力や奥深さを知り、そのものを好きになる、ということです。

私にとって、野球を勧めることと、古典の興味関心を喚起することは、「好きなものを好きになってもらう」という点で同じです。古典の授業でも、生徒が今持っている興味関心に引っ掛かりそうな「フック」を仕掛けて、少しずつ、古典そのものの面白さにつなげていきます。彼らがすでに持っている感性、今ある知識の枠の中で、彼らのペースに合わせて並走し続ける、というのではなく、どこかでグイッと違うコースに引っ張って、新しい世界を見せること、自分からはアクセスしてこなかった外の世界に引っ張っていくことを目指します。もちろん、野球であれ古典であれ、どうしても好きになつてくれないこともあります。それはもう、仕方ないことです。私はいつも、あわよくば一コマあたり一人

の興味関心が喚起できれば十分だと思って授業を組み立てています。一コマあたりたった一人でも、週二コマの授業を指導要領の定める標準時数ぶん実施すれば、約七〇回なので、四〇人クラスであれば、一人につき年間約二回ずつ、その興味関心を喚起できる計算になります（明らかにナンセンスな計算ですが、これぐらいの気持ちで授業に臨む方が、よい意味で余裕をもって、やわらかい表情で授業ができると思います）。

2 「フック」と「問い」

幸い、古典にはフックの仕掛け所が豊富にあります。『伊勢物語』「東下り」であれば、「あづま」の語源を説明する際にゲームや漫画の世界で「倭建命（日本武尊）」を知っている生徒をひきつけたたり、「乾飯」を作っている授業時間中にふやかして食べてみたり（涙の塩分濃度をスマホで検算させて、その場で食塩水を作ってから授業を始めたこともあります）……。さらに深掘りして、「ヤマトタケルが『あづまはや』と嘆くのは足柄の坂です。坂は〈内／外〉〈此岸／彼岸〉の境界と捉えられていて、ここ

で彼は白い鹿の姿をした神に出くわします。アニメ映画『千と千尋の神隠し』で千尋と両親が異世界に迷い込むきっかけとなったのも「坂」。両親は異界のものを食べて豚になりますが、これは黄泉戸禊で黄泉の国の住人になったイザナミと重なります。」と、他の作品につなげることもできます。乾飯については、「災害備蓄品のアルファ化米はまさに乾飯です。これは家でも作ることができますよ。四日ほどかかる古式ゆかしい天日干しの方法と、オーブンを使って一二〇分ほどで簡単に作れるレシピを紹介するので、ぜひ家で作ってみてください」と勧めてみるのも面白いです。

しかし、このように、こちらから話を展開するだけでなく、どうしても一方的な感じがします。できるだけ生徒が「主体的に」古典の面白さに「気づく」ことができるように、私は「段階的に問いを重ねる」という手法を用いるようにしています。以下に、二つの具体的な実践例をあげておきます。各実践例ではどのように問いを重ねていくのかをわかりやすくお伝えするために、発問内容を具体的に示しています。また、各学校でシラバス

上の制約、時間的な制約、学習到達度の制約（大学受験を見据えた指導が必要な場合、体系的な文法学習や、入試対策的なことも絡めながら、授業を進めなければなりません）など、さまざまな制約があるでしょうから、できるだけ時間を圧迫しない形でできる例をあげています。

実践例1 「日曜朝」から「名乗り口上」へ 高校一年生

『平家物語』「木曾の最期」

木曾（源）義仲「昔は聞きけんものを……」、今井四郎兼平「日ごろは音にも聞きつらん、……」の名乗り口上について

問1 「子どものころ、日曜朝の戦隊ヒーロードラマや変身ヒーローアニメを観ていた人は、何を観ていましたか。」

問2 「彼／彼女らは、変身した後、名乗りを上げてから戦いに挑みますね。ちなみに、アメリカで日本の戦隊ヒーロードラマがリメイクされた際には、現地の製作陣が『なぜ日本のヒーローは戦闘前に悠長に名

乗るのか。そんなことをしている間にやられてしまうじゃないか。』と指摘したそうです。元寇げんこうの際には名乗りを上げずに攻め込んでくるモンゴル軍に苦戦したとも言われています。彼らはなぜ名乗ったのでしょうか。」

問3 「味方と敵に向かって大声で名乗りを上げたのは、誰が誰を打ち倒したのが、その後の論功行賞ろんこうこうしょうに關わったためです。さて、ではあなたなら、どのように名乗ってから戦いに挑みますか。隣の人と二分ほどで「名乗り合い」をしてみてください。」

問4 「名乗りの中では、名前以外にどのようなことを言いましたか。何人かに聞いてみましょう。」

問5 「では、義仲、兼平はどのように名乗り口上を上げたのでしょうか。単語帳と文法書を使って、訳してみてください。」

問6 「戦隊ヒーローって、カッコいいスーツを着ていますよね。では、義仲はどのような姿で名乗っているのでしょうか。そして、名乗られた敵方はどんな反応をしているのでしょうか。教科書や便覧のカラー資料

を参考にしながら「木曾左馬頭、／＼……／大音声を挙げて名乗りけるは、」までを、文法事項に留意しながら「一条次郎／＼……／とぞ進みける」までを読んでみましょう。」

※これらのやり取りを通して、武士の名乗り口上について知ると同時に、過去推量・現在推量の助動詞や、逆接確定の接続助詞などの文法事項、武士の装束についても理解を深めることができました。ただ口語訳を作ったり、単純に本文の記述からカラー資料に飛んでしまうのではなく、いったん彼らの世界に入っていて、そこから問いを重ねることで古典世界に引っ張っていくと、彼ら自身の問いとして主体的に作品を読み、新たな世界に触れて、新たな面白さに気づかせることができます。

実践例2 「わたしの春」から「清少納言の斬新さ」へ

高校二年生

『枕草子』「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」の導入として

問1 「皆さんは「春」といえば何を思い浮かべますか。」

【タブレットやWi-Fiに接続されたPCがあれば、その場でアンケートフォームへのリンクを付けたメールを送信し、回答させると、「ライブ感」があり、多くの意見を吸い上げることができるので面白いです。その際、できれば回答結果をスクリーンに映してその場で意見を共有します。過去の回答例は「桜」「新生活」「新学年」「入学」「卒業」「たんぼぼ」「花粉症」「鯖」「プロ野球の開幕」……、特に「桜」が多いです。】

問2 「皆さんの回答には四季折々の景物、行事、旬の食材、

「物」が多いようです。『古今和歌集』でも、春の歌の半数以上が「桜(花)」を詠んでおり、春上から春下の四九番〜八九番の「桜の大歌群」があるほどです。『古今』の春の歌には他に「霞」「鶯」「柳」「山吹」なども詠まれていて、これらもやはり、四季を感じる「物」ですね。では、清少納言『枕草子』では、「春は」何でしたか。」

問3 「春はあけぼの」です。ね。「あけぼの」とは何でしょう。

うか。単語帳や辞書を使って調べてみてください。

問4 「夜がほのぼのと明け始めるころ」のような説明

が出てきましたね。これは、「物」ではなくて「時間」です。

いかにも春らしいものではなく、時間帯

を持ち出した。ここに、清少納言らしさ、「非凡さ」

「斬新さ」が見られます。しかし、春とあけぼの（朝）

の取り合わせは、季節を無視した、品格のない取り

合わせではないのです。『枕草子』の約一〇〇年前

に作られた勅撰和歌集『古今和歌集』の序文、「仮

名序」には、かつての帝たちが「春のはなのあした」

に歌を詠ませた、とすることが書かれていて、春と

朝の組み合わせはちゃんと、雅な取り合わせだった

のです。みんなが当たり前に思い浮かべるものでは

ない、斬新なものを持ち出している、けれども、実

は古典（清少納言にとって、『古今』はすでに古典です）

を踏まえている。この非凡さや、機知が、他の章段

にもたくさん見られます。「中納言く」「雪のいと高

うく」にも清少納言らしさが見られて面白いので、

早速読んでいきましょう。ちなみに、今の説明の多

くの部分は山本淳子さんの『枕草子のたくらみ』（朝

日新聞出版、二〇一七年）を参考にしています。また、

『古今和歌集』については、鈴木宏子さんの『古今

和歌集』の想像力』（NHKブックス、二〇一八年）を

参考にしました。ぜひ読んでみてください。

※「中納言く」「雪のいと高うく」は、二方面への敬意

や助動詞などの重要文法事項が多く、難しいので、導

入時点でちょっと読んでみようと思えるように工夫し

ています（私は現代文は「まとめ」、古典は「導入」が肝心

だと思っています）。また、興味関心を持った生徒をよ

り「ディープな」古典の世界に誘えるように、自分が

参考にした図書はできるだけ紹介するようにしていま

す。